

『上海本』蒐録（1）

倉橋幸彦

My Library on Shanghai in Japanese

KURAHASHI Yukihiko

小 引

本稿は、筆者のほぼ十五年に亘る『上海本』蒐集の経過報告である。

編者は、一九九一年、本学のプロジェクト共同研究「国際都市上海」（期間は三年）への参加を認められ、これを契機にして本格的に上海関連書の収集を開始、現在に至っている。この間収集した上海本の総数は、邦文に限れば、現在のところほぼ700点。

もとより、個人の蒐集には限界があり、邦文『上海本』の総数からすれば、この700という数字も取るに足らぬものであろう。

また、上海関連資料の目録も、戦前だけで少なくとも三種（「凡例」参照）。90年代以降にもかなり詳細なものがいくつか公にされている¹⁾。

平成17年2月28日 原稿受理

大阪産業大学 人間環境部教授

- 1) 大橋毅彦・真銅正宏・竹松良明・和田桂子・和田博文編「上海関係・出版物年表（一八四〇年～一九四五年）」をはじめ、「参照・引用文献目録」（高橋孝助・古厩忠夫編『上海史』東方書店、1995年5月20日、左42-48）、陸艶「文献目録：I. 日本文／II. 中文／III. 英文」（小島勝・馬洪林編『上海の日本人社会—戦前の文化・宗教・教育—』[龍谷大学仏教文化叢書X]永田文昌堂、1999年5月31日、199-216）、趙夢雲「『上海・文学残像』関連年表：1 一八四〇年～一九五〇年（単行本／新聞・雑誌・事項）／2 一九五一年～一九九九年（単行本）」（『上海文学残像日本人作家の光と影』[現代アジア叢書35]田畑書店、2000年5月30日、189-298）等がある。

しかし、これらにしてもいまだ『上海本』の全貌を見渡すまでには至っていないのが現状である。それゆえ、日本人の上海に対する眼差しの変遷を俯瞰できるような書目の出現を望みつつ、この「蒐録」がその一助になることを願い、あえて「蔵出し」に望んだ次第である。先行する資料目録や書目の誤りにも出来る限り言及した所以でもある。もちろん、一度このあたりで「死蔵本」を整理しておきたいというのが偽らざる本音ではあるが。

最後に、上記プロジェクト研究会への参加をお誘いいただいた大川俊隆、桂川光正両先生と他の研究会メンバーに、この場を借りて深く感謝の意を表しておきたい。

凡 例

1. これは、日本及び上海を始めとする中国で発行された邦文による『上海本』の蒐集記録である。
2. 構成は、Ⅰ. 上海本（総頁数の半分以上が上海に言及するもの）、Ⅱ. 上海小冊子（総頁数が20頁以下のパンフレット類）、Ⅲ. 地図（一部「Ⅰ」・「Ⅳ」所載のものを含む）、Ⅳ. 上海関連本（上海関連箇所が総頁数の半分未満であるが20頁をこえるもの）の四章とし、配列は各章年代順とする。
3. 記載様式は、以下の通りとする。

書名〔叢書・シリーズ名〕

著者・编者

発行所（発行地、上海の場合は住所番地まで）

出版年月日

版型／頁数／図版・表・地図の有無／定価／カバー・函の有無

◆内容 || 上海関連の本文 |

* 「序」や本文等からの引用；〔☆编者補注〕〔★编者訂正〕

4. 記号・略語の説明

◎：再版を所持するが、初版未所持。

◇：版表示「番号」。

→：参照

[注]：奥付に関わる（発行人・印刷所等）注記。

[参考]：先行目録・書目における収録状況及び出版・内容に関する参考文献を引く。

『中支』：満鉄大連図書館編『中支那文献総覧 昭和十三年末現在』（大連図書館，昭和14（1939）年5月1日，56頁）。

『米澤』：米澤秀夫「上海史文献解題」（『上海史話』畝傍書房，昭和17（1942）年7月10日，297-410）。

『華中』：上海市政研究会編『上海に関する文献目録』（華中鉄道，昭和19（1944）年5月1日，153頁）。

『言語』：大橋毅彦・真銅正宏・竹松良明・和田桂子・和田博文編「上海関係・出版物年表（一八四〇年～一九四五年）」（『言語都市・上海1840-1945』藤原書店，1999年9月30日，229-245）。

【1897-1920】

I. 上海本

〈1897〉

1. 清国新開港場視察報告

中野忠八・田村武治

京都商業會議所（京都）

明治30年9月30日

菊版変型 269頁 図版・表・地図

非売品

[注]：扉に、京都商業會議所清国新開港場視察員、中野忠八（京都商業會議所常議委員）と田村武治（同書記長）の署名で、京都商業會議所会頭濱岡光哲宛に「清国新開港場視察調査別冊ノ通り報告候也〔☆明治29年3月7日付〕」と記す。

◆目次2頁 || 視察ノ目的 / 視察ノ区域 / 視察ノ順序 / 視察地ノ状況：上海 3-189；地理地勢・城市及居留地ノ景況・風俗人情及氣候・商業・外国貿易・税関・工業・交通運輸・郵便・通貨及金融・度量衡・清国貨物包裹法・清国商工同業組合 | 蘇州府 / 杭州府 / 無錫 / 嘉興府 / 鎮江 / 南京 / 九江 / 蕪湖 / 漢口 / 沙市 / 宜昌 / 拾遺

* 「視察ノ順序」：「明治二十八年十月十八日午後日本郵船会社備独逸汽船ダブネ号ニ乗込ミ / 翌十九日未明神戸港ヲ解

纜シ / 馬関長崎ヲ経テ二十四日午前九時清国上海ニ達シ / 先発ノ一行ニ会シテ一隊トナレリ / 〔☆十二月〕十八日日本郵船会社飛脚船長門丸ニ塔シ / 正午拔錨帰朝ノ途ニ就キ / 廿二日午前九時神戸ニ着シ直ニ京都ニ帰ル」。

〈1903〉

2. 蘇浙小観

遠山景直・大谷藤次郎

江漢書屋（東京）

明治36年6月9日

菊版変型 355頁 図版・地図 70銭

[注1]：「発行者」は遠山景直。

[注2]：「大売捌所」は服部書屋（東京）。

◆ [容齋] 題詩：「題蘇浙小観」二首 / [遠山長江・大谷是空] 例言2頁 / 目次7頁 || 極東の上海 1-2 / 揚子江と上海 2-4 / 日本と上海 4-7 / 上海航路 7-18 / 上海 18-55；地理・沿革・上海港・租界・政事・貿易・支那外国貿易額・支那貿易概観・上海と外国貿易・上海輸出入国別表・日本と上海貿易・日本より輸出品・日本へ輸入品・船舶・上海港船舶出入表・上海港出入日本船舶表・沿岸航海船・輪船招商局・印度支那汽船航海会社・支那航海会社・漢堡垂米利加会社・鴻安公司・麦辺公司・美最時洋行・禪臣洋行・開平鉞務局・瑞記洋行 / 大坂商船株式会社 55-76 / 湖南汽船株

株式会社 77-90 / 日本郵船株式会社
91-110 / 上海雜纂 110-174 ; 上海水先
業・黄浦江倉庫・碼頭料・倉敷料・金融機関・
銀行の種類・外国銀行・支那銀行・票莊・銀
莊・錢莊・銀炉・公估局・九八規銀・金号・当
舗・支那銀行組合・支那銀行利率・通貨・兩・
銅錢・上海馬蹄銀・墨銀円銀・上海紙幣・船
渠・造船業・製糸業・紡績業・上海に於ける紡
績業失敗の源因及将来の希望・気候及流行病・
報時信号・暴風信号・上海自来水局・黄浦江水
路局・魚菜市場・新聞紙・上海の学校・上海徒
弟学校・東亜同文書院・上海英米租界外国人
人口・同男子職業別・英米租界内居住支那人口・
仏租界外国人口・上海在留日本人口及職業・上
海居留日本商一斑 / 大東汽船株式会社
174-300 | 雜纂

* 「例言」: 「編纂の材料は、専ら蘇浙二
省に於ける、我帝国領事館の報告を基礎
とし、知友先輩の通信、欧米人の記録、
及び編者曾遊の記憶に拠れり / 卷首の題
字は近衛公爵の賜、題詩は寧齋野口先生
の惠贈、地図は岸田吟香先生の厚与、名
勝の写真は在上海佐藤伝吉君の寄贈にし
て、表紙の画題は岩瀬眉山君の考案揮毫
に成る / 遠山長江大谷是空識」。

[参考1]: 『米澤』: 「主として上海の事情と航
運の状態につき記す」。『華中』(歴
史地理73)

[参考2]: 編者の一人大谷藤次郎(是空)の
著書として『萬年筆』(日本堂書店、
大正11年10月8日)を架蔵するこ
とを付記する。

〈1904〉

◎上海語獨案内

明治37年10月20日

◇第5版(「I - 6」)奥付による。

〈1907〉

3. 上海

遠山景直

明治40年2月28日

菊版 421頁 図版・表・地図 2円

[注1]: 遠山景直(東京府豊多摩郡大久保
村)が「著作兼発行者」。印刷所は国
文社(東京)。上海での「売捌所」は、
「日本堂・東亜公司新書局(河南路)・
松翠洋行」。なお、『米澤』は「上海
にて刊行」とし、『言語』も「日本堂
書店」を記すが、これは誤解を与える。
また、『華中』(一般案内1・歴史地
理75)が国内「売捌所」の一つ「東
京大野書店」を記すのも同様である。

[注2]: 背表紙は「SHANGHAI」と記す。

[注3]: 架蔵本奥付には、「改正定価壹元貳拾
仙」のゴム印が押されており、これ
は上海で販売されたものか。

◆例言2頁 / 目次8頁 / 口絵13頁 || 緒言・上
海国・上海国語(支那英語)・揚子江・
上海県・上海・上海港・黄浦江・浦東・

吳淞・上海通商沿革一斑・公堂事件・支那通商沿革一斑・政事・工部局・巡捕房・衛生・消防屯所・失火警鐘・營業稅・義勇隊・日本義勇隊・市公会堂・會審衙門・公共租界内外国人々口・公共租界内支那人々口・江海北関・商標登録分局・領事署・支那外国貿易・上海と外国貿易・日本と支那貿易・船舶・沿岸航海船・輪船招商局・印度支那汽船航海会社・支那航海会社・美最時洋行・禪臣洋行・開平碇務局・大阪商船会社・鴻安公司・日本郵船会社の華利萃利・瑞氣洋行・内河航路・大東汽船株式会社・内河汽船会社運賃・湖南汽船会社・遠洋航路・日本郵船株式会社・彼阿会社・漢堡、亞米利加、北独逸ロイド会社・仏蘭西郵船会社・大洋汽船会社・露国義勇艦隊・東清鐵道会社汽船部・東亜会社・支那共同汽船会社・太平洋郵船会社・東西洋汽船会社・加奈太太平洋鐵道会社汽船部・ベン、ライン汽船会社・グレン、ライン汽船会社・北太平洋郵船会社・ポートランド、アジアチック汽船会社・東洋汽船株式会社・仏蘭西メール乗船賃・倉庫・碼頭・金融機關・外国銀行・往昔の支那銀行・現時の支那銀行・金銀價格・保險・衣食住・小菜市場・牛乳棚・水道・日本医・開導学堂・東洋学館・亜細亞学館・日清貿易研究所前記・同後記・

東亜同文書院・上海の学堂・徐家匯司天台・教会堂・天足会・報館・上海日報・日本商店・日本旅館・客棧・ホテル・招牌・御土産・株式直段・富籤・銷金窟・堂子・野鷄・茶園・書場・小調・酒館・蕃菜館・宵夜館・茶館・煙館・台基・賊・党人・芸娼妓自由廢業所〔☆「濟良所」〕・鬪蟋蟀・競馬・洋戲場・馬車・東洋車・轎・舢板・遊艇・電車・滬寧鐵路・淞滬鐵路・公園・愚園・張園・申園・辛園・徐園・静安寺・龍華寺・黄婆庵・李文忠公祠・江南器機局・船渠・南市工程局・上海支那商業會議所・公所慈善事業・墳墓・上海の祭日・氣候・暴風信号・報時信号・日本郵便・支那郵便・電報・電話・渡航規則・上海日本人協會・日本人俱樂部・上海俱樂部・滬上青年會・東莊同業公所・上海在留日本人數・上海在留日本人營業案内

*「例言」：「客漁初めて滬に遊ぶや実に二十年前にあり、爾時偶々申江に槎さすも、徒らに江上の風光を愛するに止り又た意を他に留むるなし、去年の秋復び来るや、大ひに感ありて其見聞するものを隨手雜録し、積んで二百四十余条に至る、今者削りて一百六十四条とし、之れを上海と名つけて世に公にす／長江客漁遠山景直叔卿識」。

[参考1]: 平野健『上海渡航の葉』(「I-21」)の滬上様客「序」:「上海に関する各種の書物のうち、日本人の手に成れるものの最も有趣なるは遠山氏の『上海』也」。

[参考2]: 井上紅梅「阿片吸食体験記」(入澤達吉編『支那叢話』三笠書房, 昭和12年9月15日, p210):「第二の見聞は民国二年の秋, わたしの支那料理屋も失敗して, いつそ身軽になつて上海に引移ることが出来た時のことである。／わたしは宿引に連れられて乍浦路の松崎洋行に尻を落ち着けた。東京の図書館で景山〔★遠山〕の『上海』といふ本を読んでいたの、此処へ来ても少しも不便を感じなかつた」。

[参考3]: 『中支』(上海/地誌)
『米澤』:「邦人によつて書かれた上海案内記の最初の最も纏まつたもの。日本商店と題せる一節の如きは, 明治元年以来廿三年までの在留邦商の盛衰を逐一記録し上海邦人史の貴重な資料をなす」。『華中』(一般案内1・歴史地理75):「当時の上海一般の事情, 殊に邦人の発展を知る好著。日本医, 東洋学館, 亜細亜学館, 日本商店等の項が見える」。

[参考4]: 増田渉「『雑書』雑談」(『雑書雑談』汲古書店, 1983年3月, p111):「上海について政治, 経済, 交通, 教育などから, 衣食住の生活面及び遊覧場に至るまで, 時に挿話も混えながら雑然ととりまとめたものに明治四十年出版の『上海』があり, 菊版四百二十ページに及ぶ」。

〈1908〉

◎滬語便商一名上海語 総訳

明治41年6月5日

◇再版(「I-10」)奥付による。

〈1910〉

4. ポケット必携 上海語会話

湖北生

松翠堂書店(虹口文路K2242号)

明治43年2月1日

四六半截版 170頁

[注1]: 題箋・奥付では, 書名を「实用上海会話」とする。

[注2]: 定価の記載なし。

◆自序2頁/凡例2頁/目次7頁||単語門; 数
目・序数・倍数・暦月・月日・七曜日・四季・
時令・方位・貨幣及度量衡・数量単位・天文・
地理・人倫・人体・疾病・職業・家屋・家具・
衣服類・飲食物・獸類・鳥類・昆虫類・魚類・
鉱物・色・交通機器・国民及地名・商用単語・
代名詞・形容詞・動詞・副詞・前置詞・接続詞
/短句門/会話門/小対話集

*「自序」:「方今日清貿易の発展に伴ひ我同胞の上海に來り住する者益々多く其数今や將に万に垂んとす, 然り而して苟も此地に在りて事に従ふ者は其地位の如何に由らず必ず先ず上海語を修得せざる可らず, 然るに未だ之が指針たるべき適切なる独習書あるを聞かず, 余之を遺憾

とすること多年終に敢て菲才を顧みず此一篇を成せり、小成元より識者の笑を招くや必せりと雖是亦臨機応変の一策たるを失はず、若し夫れ学者之に由りて多少の利する所あらば余が本懐之に過ぎずと言ふのみ〔☆全文〕。

5. 揚子江富源 江南事情

上海出品協会

日本堂書店（虹口文路227号）

明治43年 8月 3日

菊版 488頁 図版・表・地図

1円80銭

〔注1〕：「編輯兼発行者」は杉江房造。印刷所は新井電新堂（東京）。

〔注2〕：函及び附録「南洋勸業会」を欠く。

◆口絵15頁／〔有吉明（上海総領事）〕序2頁／〔根津一（東亜同文書院長）〕江南事情序2頁／〔日本出品協会〕緒言／目次6頁 Ⅱ 案内編42頁；上海1-12／南京／鎮江／揚州／蘇州／杭州 Ⅲ 政治編138頁；緒言／南京／上海 51-94；支那街行政・居留地行政・仏国專管居留地・人口・会審衙門・領事館及領事団・新聞紙・徐家匯司天台附信号標・上海日本居留民団・東亜同文書院・倶楽部／蘇州／杭州／江南財政／新官制及立憲予備事業 Ⅳ 経済編308頁；上海2-234；総説附揚子江・貿易・交通・金融・保険業・工業・鉱山・商業・商工組合及機関・税関／南京／鎮江／

蘇州／杭州

*「緒言」：「本書載する所南洋勸業会の概略並に案内及び該会の主催地たる江南一帯地則ち南京鎮江蘇杭上海等の各地方の行政経済一般の事情を概説し以て該会観覧者の研究の資に供す／就中清国内外貿易の総匯にして長江の咽喉たる上海を中心としての運輸交通金融の機関より集散貨物並に各種商業習慣に至る迄説述／本書の編纂につきては該会開期正に切迫し時日甚だ倉忽の際なりしにも拘らず東亜同文会調査部に於て本会の依頼に応じて引受け完成せられたるは深く本会の感謝する所なり」。

〔参考1〕：「I-6」所載の「上海日本堂発行書目」：「東亜同文会々長鍋島侯爵題字／本書は南京博覧会を好機として支那富源の匯枢たる江蘇浙江の政治経済状況を普く世人に紹介せん為め東亜同文会調査部に囑託して巨資を惜まず十数月の苦心と精力を傾注してなりしもの／特価大洋二弗」。

〔参考2〕：『中支』は「中支那／地誌・紀行」に採るが、ここでは総頁の半分以上を上海に言及するので、『上海本』とみなす。『華中』（商業貿易181）：「先づ上海の一般事情を紹介してより、政治経済に亘つて上海を詳説して居る」。『言語』

〈1911〉

6. 改正増補 上海語獨案内

杉江房造

日本堂書店（虹口文路227号）

明治44年1月1日5版

118×160 92頁 大洋30仙

[注1]: 杉江房造は「編輯兼発行者」。印刷所は作新社印刷局（四馬路55号）。

[注2]: 版; 明治37（1904）年10月20日初版／同38年3月25日再版／同39年8月25日増補訂正3版／同41年10月10日4版／

[注3]: →13版「I -27」

◆ [一葉] 自序1頁／[和堂] 三版について1頁／凡例4頁／目次4頁 || 単語之部; 数目・時刻及歴日・天文及方向・度量衡・身体及人称・地名・穀類及鉱物・野菜と果物・魚類及飲食物・鳥獸類・昆虫及薬品病名・織物染料及衣服・食器日用品及家具・文房具及化粧品・一般名詞・商業用語・雑名詞働詞形容詞／問答之部

* 「三版に就いて」: 「去る三十七年知友一葉君〔☆詳細不明〕の著はせる本書を世に出さんとするに当り先輩の教を請ふの暇なく再版を待ち是れが増補訂正を行はんものと其儘印に付す／然るに意外の好評を博し訂正の機なく再版の止むを得ざるに至れり／此次又第三版を出すに当り時偶々炎暑に会し教を請うべきの先輩

あらず／止むなく余盲者蛇に恐れずの例に漏れず二三訂正を加へ大方の教を待たんとす幸に高示を給はば望外の榮なり」。

[参考]: 来馬道雄（自慰庵）「支那紀行吟」〔蘇浙見学録〕大正2年8月26日, 「IV - 13」に「上海語獨案内と首つ引き」(p241) という一首あり。

〈1913〉

◎上海案内

大正2年1月10日

◇第8版（「I -16」）奥付による。

〈1915〉

7. 上海及營口事情

大槻清三・荒岡清

農商務省商工局

大正4年3月24日

188×260 118頁 非売品

[注]: 表紙に「商工彙報第三十四号」とある。

◆扉1頁／目次2頁 || 上海事情1-62; 概況・沿革及地域・行政組織・港市設備・交通・工業・通貨及金融・商業・税関制度 | 營口事情 63-118

* 「扉」: 「本書ハ海外実業練習生大槻清三ノ調査報告に係ル上海事情及同練習生荒岡清ノ調査報告ニ係ル營口事情ヲ集録

セルモノナリ／当路者ノ参考ニ資スヘキ
点少ナカラサルヲ以テ茲ニ之ヲ印刷ニ附
ス」。

[参考]：『米澤』：「農商務省工務局刊」は誤記。
『華中』（商業貿易187）『言語』：「日
本国内においてもこの年、農商務省
商工局から、『上海々産物事情』（三月、
『商工彙纂』第三三号）〔☆未見〕及
び『上海及び營口事情』（『商工彙纂』
第三四号）など、上海の事情を伝え
る報告書が出されている」。

8. 上海の色

清水董三画

大正4年6月27日

165×223 非売品

[注]：印刷所は、上海日報社印刷部（虹口礼
查路1号）。

◆ [鄭孝胥] 題字／ [李梅庵・姚賦秋] 題画
／ [宗方小太郎・北星・佐原篤介・西田養稼・
白川・南平] 序文6頁／自序2頁 || <スケッ
チ 31葉>：舳板・街の角・半日の閑・
活動の広告・軒灯夫・豚のうめき・甕の
音・浦東の煙・バンドより・夏来る・街
の塵・バナナの期節・木の屑と汗の香・
樹蔭・油の香・道普請・日和・河岸に
て・すまる・鬚のひかり・冬枯・酒とは
書かずに・栗売る頃・路次にて・羊を引
きて・埠頭あたり・陶器屋・うらなひ・
冬の風と芋の香・路上にて | 附：[茂] 戈
壁の沙をあびて 4頁／ [佐藤] 偶感 1頁／ [阿

津] 春の陽と苦力 1頁／ [浪男] 公園の午下
り 2頁／ [潮香] 上海に 2頁／おはりに 1頁

* 「自序」：「上海の色といふ題を、私
は少なからず躊躇しながらつけました。
何となれば、ここに集めたものは、殆ん
ど上海に於ける支那色を描写したものば
かりで、完全に上海の色と云ひ得るもの
は僅か二三に過ぎないからであります。
／ただ、私は、将来これを筆の始めとし
て上海の色を展開して見たいといふ、は
かない望の為に、しばらく、題と内容
との、かけへだたりを、その儘に、忖へ
て居たいと思ひます」。

* 「おはりに」：「尚本画集の発行は、
全く上海『春申社』同人諸彦及び上海日
報社の甚大なる御尽力の結果成りました」。

[参考]：『華中』（一般案内3）

9. 大上海

内山清・山田修作・林太三郎

大上海社（海能路太安里18号）

大正4年8月25日

菊版 627頁 函版・表 2円50銭

[注1]：印刷所は作新社（梧州路10号）。「売
捌所」は、東亜公司（河南路）・楽善
堂（河南路）・日本堂（文路）・申江
堂（文路）。なお、発行所大上海社は、
「商事調査」の業務も行う。

[注2]：新村出「上海雜記」(『南方記』明治書房、昭和18年4月29日、p230)によると、大正7年に再刊の由。

◆序：[有吉明(上海総領事)] 2頁・[根津一(東亜同文書院院長)] 1頁・[石井徹(上海居留民団行政委員議長)] 1頁[☆漢文]・[児玉謙次(上海日本人実業協会会頭)] 2頁／小引2頁／目次10頁 || 地理；総説・市街の概観・人口／沿革；開港前・開港後／気候及衛生／風俗／政治；共同租界行政・会審衙門／公共及公益設備；学校(支那人経営の学校・外国人経営の学校・外人教育を目的とする公私各学校・日本人経営の学校)・博物館・慈善事業・図書館・消防事業・上海小菜市場・新聞雑誌・外字新聞・邦字新聞／交通；陸路・電車鉄道・自動車、馬車、人力車、其他・鉄道・航路(内河航路・沿海航路・長江航路・外洋航路・民船、民船碼頭、渡船場、民船貨物、民船傭入、航行の業務・港内設備・上海航運界に於ける列国の勢力)／税関及通信；税関・電話、電信、郵便／金融機関；外国銀行・新式支那銀行・旧式支那銀行／貿易；総説・輸入品各説(工芸品・布帛及原料・燃料・鉱物及機械類・食料品・嗜好品・雜類)・輸出品各説(生糸及茶・棉製品及原料・雜穀肥料・雜品)／商業機関／工業；電燈及電力・水道及瓦斯・造船及造機業・製紙業・紡績業・製粉業・榨油業・製革業・靴下及製帽業・飲食物製造業／土木建築及度量衡／農牧漁業／軍事及宗教

*有吉明「序」：「本書の著者内山君は余の僚友で、多年主として上海総領事館の調査報告の任務を担当せられ、山田君は農商務省の派遣員として同様の事務に当られ、何れも従来極めて有益なる資料を供せられたる経験に徴して、之等両君の造詣に加ふるに久敷間支那に種々の経験を積まれたる林君の熱心な調査と努力に依りて成れる本書が、十分に信頼すべきものたるは余の信じて疑はぬ所で、永く支那特に上海に居らるゝ方々にも極めて有益なる参考書として本書を推選するに躊躇せぬ」。

*児玉謙次「序」：「所謂「上海国」は二十余国の経済的選手が孜々として輸贏を争ふ晴の舞台にして又支那に於ける列国勢力の縮図なり此に於てか上海の研究は真に大なる意義を有す／本書の著者内山清氏は由来篤学の士職を外務省に奉じ支那に在住すること約十載主として貿易調査の任に当れるを以て這般の事情に通曉せらるゝは言を俟たず又山田修作氏は学を東亜同文書院に畢へ選ばれて農商務省囑託となり重に中部支那に於ける貿易事情調査を委ねられ対支商工業者の誘導啓発に努力せること茲に歳あり林太三郎氏は渡支以来十数年公私の業に従ひ支那を研究し又親しく商務に干与し其間の経験実学に依つて得たる細大の観察に基き

前二氏と協力此大冊を編成せるものにして其内容の苟くも上海に関して不可不知ものは秩序整然として周詳漏す所なきも又偶然にあらざるなり」。

* 「小引」：「本書載する所の各統計は主として大正元年及同二年分を採用せり蓋し此二個年は支那の対外貿易額が従来の最高に達したるの時にして同年以前には革命事変の影響あり又大正三、四年中は欧州戦乱の影響を受け共に標準とすべからざるを以てなり」。

[参考1]：有吉明「『貿易上より見たる支那風俗の研究』(『IV-15』)序」：「内山君は多趣味で研究癖あり加ふるに達筆家である，同君は多忙なる公務の余暇裏には山田，林両君と共に「大上海」なる有益なる著述(★述)あり」。

[参考2]：『中支』(上海/地誌)『米澤』：「著者の内山氏は当時総領事館の書記生，山田氏は農商務省の派遣員，林氏は在留実業家である。上海の沿革，気候，衛生，諸制度から諸商品の取引事情に及ぶ総覧的解説書で，発行当時非常な好評を博したものである」。『華中』(一般案内4)

[参考3]：増田渉「『雑書』雑談」(前掲『雑書雑談』p111)：「大正四年出版の内山清，山田修作，林太郎共著の『大上海』がある。「上海を視察せんとする者，又は新たに在留せんとする者に対し，上海の一般事情を比較的簡明に紹介せんが為めに編纂」(「小引」)したものだとい

うが，前者〔☆『上海』(『I-3』)〕に比べて詳しく，整備された編集である。地理，人口，沿革，〔☆以下略〕，など十五章に分けて記述され，菊版六百二十余ページの本である。ただしこの書の参考書，あるいはタネ本になったものは商務印書館の『上海指南』〔☆『米澤』：「宣統元年初版の最もよく纏まつた上海案内書」あたりではあるまいか〕。

〈1917〉

10. 滬語便商 一名上海語 総訳

御幡雅文

大正6年1月5日再版

四六版 151頁

[注1]：印刷者は赤羽正己，印刷所は東洋印刷株式会社(東京)。国内の「売捌所」は，金港堂書籍(東京)と文求堂(東京)。上海の「売捌所」は，日本堂書店と申江堂書店(虹口文路250号)。

[注2]：「目録」の書名は，「滬語便商意解」。

[注3]：定価の記載なし。

[注4]：「版」；明治41年6月5日初版／

[注5]：同書は『滬語便商』の訳本。六角恒廣編『中国語関係書書目〔語研選書(2)〕』(早稲田大学語学教育研究所／不二出版，1985年3月10日再版)によると『滬語便商』は明治25年9月初版発行。また『滬語便商意解』も同年同月の刊行の由(→[参考3])。

[注5]：影印本あり。波多野太郎編・解題『中国語学資料叢刊第四編尺牘・方言研

究篇 第三卷』(不二出版, 1986年10月30日)所収(p241-280), 基づく版は架蔵本と同じく再版。なお, 同巻には『滬語便商』の増補訂正版(大正13年6月4日, 明治41年1月25日初版)も影印(p193-240)されている。

◆目録6頁 〓 <全50章> : 散語部十章 ; 数目類・人事類・乗車類・時令類・食物類・用物類・襍語類 : 此章, 第一至五十一, 係將本国人需買之綢緞材料名称, 穿插而為散語, 五十二至八十七, 專録行旅中不可欠之要語, 八十八至一百, 專録一二有関天気, 及居家当留心之語, 零一至百十一, 係將称呼名詞, 編入語中, 百十二至末後, 係將五官之称, 分別話条中, 集為一篇・商語類・商語類・筵讌類 / 問答部五十章

[参考1] : 『華中』(言語335) : 「滬語便商総訳 / 御幡雅之〔★誤植〕 / 大正14」。なお『華中』は, 「滬語便商 / 御幡雅之 / 大正14」(言語336)も採る。また, 『言語』は, 「一九一三(大正2)年 / 二月, 御幡雅文『滬語便商一名上海語』(売捌所日本堂書店)」とする。

[参考2] : 前掲, 波多野太郎編・解題『中国語学資料叢刊第四編 尺牘・方言研究篇 第一巻』巻頭「解題」: 「一冊。御幡雅文著。明治四十一年(一九〇八年)六月, 赤羽正己刊。大正六年(一九一七年)一月, 再版。「摠譯」を内に「意解」と題す。中國の版本には往々にしてあることであるが, 御幡先生のものらしい。序跋なし, 刊記の御幡雅文に「故

の字を冒すから, 赤羽が遺稿を版にしたものと想像される。譯文の間, 處々に雙行の解説あり, 原地の言語と風俗に通曉する人でなかったら不可能なもの」。

[参考3] : 御幡雅文については六角恒廣『漢語師家伝 - 中国語教育の先人たち』(東方書店, 1999年7月30日)に詳しい。同書(p154) : 「御幡雅文は明治二十五年(一八九二)九月に『滬語便商』と『滬語便商意解』を出した。この二書はいずれも縦十五センチ, 横十一・五センチの小型で線装本である。「散語」十章と「問答」三十五章からなっている。 / 『滬語便商意解』は, 総訳本である。この本の末尾の綴じこみのノドの下方に「上海修文書館印行」とある。修文書館は, 館主松野平三郎が上海四川路に明治十七年八月開館した印刷所である。 / 『滬語便商』とその『意解』は, この修文書館で印行された。 / 後になつて『滬語便商』とその『意解』は明治四十一年(一九〇八)上海の日本堂書店から刊行されている」。

11. 上海漢口青島案内

島津長次郎

金風社(北四川路第2長安里2号)

大正6年3月30日第7版

148×223 376頁 図版・表 1弗4角

[注1] : 島津長次郎は「発行兼編輯人」。印刷所は堀越日進堂(大阪)。上海の「売捌所」は, 日本堂・申江堂・豊陽館(旅

館，西華徳路)。

[注2]：版；大正2年1月10日初版／大正2年11月20日第2版／大正3年4月10日第3版／大正4年1月1日第4版／大正4年9月25日第5版／大正5年5月25日第6版／

[注3]：頁数は「上海案内」の部のみを記す。

◆目次4頁／口絵8頁 || 上海案内 1
-237：上海の起源／現今の上海；概論・沿革・人口・市街の状況・旧英租界・旧米租界・法租界・閘北・浦東・南市・呉淞・上海港／行政；共同租界・法租界・領事団及領事館・工部局警察・会審衙門・上海租界外の行政／財政；共同租界財政・營業税目・一九一六年度共同租界工部局歳出入予算表・一九一六年度に於ける同収入明細表・一九一六年度法租界工部局歳出入予算表・一九一六年度法租界工部局歳出予算表／衛生／気候／公園及娛樂機關；音楽隊・水浴場・劇場・活動写真・遊覽場／公共事業；上海義勇隊・消防隊・「上海警鐘区域」図・教育・博物院・水道・電燈瓦斯会社・小菜場・屠場／交通；電報・各国郵便局所在地・電話・陸上交通(滬寧鉄道，滬杭鉄道・電車・「上海電車軌道図」・自動車・馬車・人力車・自転車・小車・轎子)／水上交通(外洋航路，北支那航路，南支那航路，長江航路，内河航路，近海航路)／商業；一九一五年の上海貿易状況・支那商店事情・上海の通貨及金融・各国及重なる支那銀行／税関；貨物輸入通関手続・貨物輸出通関手続・

派司(Pass.)・釐金局・三聯單／官公所；タウンホール・上海俱樂部・上海英国商業會議所・上海總商会・上海南商会・江南機器局／言論界；英字新聞・支那新聞／上海名所；外白大橋・黄浦灘の記念碑・四馬路(書館，唱書・長三，打茶困，叫局，么二，芸名，野鷄，住家野鷄)・城内・張園・愚園・徐園・徐家匯教会，天文台・龍華寺・新世界・肅雲天・城内勸業場・六三園と滬上神社・月廬家花園・「指算」図・葵向園／上海事情；競馬・支那料理・支那劇-その種類・看板・商標・上海の質屋・土産物・老酒・上海の賊の種類・悪車夫・借家に就て／工業；紡績工場・絹糸紡績・製糸工場・製粉工場・製紙工場・製油工場・製革所・燐寸工場・石鹼業・ドック・製氷，セメント，コルク，製缶，磚瓦，棉繰各工場・硝子，麦酒醸造，製煙工場其他／邦人案内；日本總領事館・上海在留民規則・大日本帝国郵便局・上海居留民団・東本願寺・西本願寺・本圀寺・基督教青年会・上海義勇団・上海日報・上海日日新聞・上海週報・華報・東亜日報・上海日日新報・「上海，漢口，青島案内」・上海日本人実業協會・上海貯蓄組合・東亜同文書院・日本小学校・滬上青年会・上海商業学校・上海女学校・英学院・海軍俱樂部・日本人俱樂部・乗馬俱樂部・商友俱樂部・実業俱樂部・敷島俱樂部・演舞場・学士会・上海医会・愛人会・尚武会・滬勇会と葵向園・蓬巷吟社・上海素人写真会・尚好会・旅館と下宿屋・在留邦人の永眠

所・上海潮水満干表・大正五年六月末現在在留
本邦人職業別表／上海在留官民人名録
239-376(姓名索引 349-376) | 寧波, 温州,
福州, 杭州, 紹興, 蘇州, 鎮江, 南京,
蕪湖, 九江, 大冶, 漢口案内及人名録
73頁／青島案内及官民人名録 149頁／濟
南官民人名録 11頁

*「上海, 漢口, 青島案内」:「上海案内は大正
二年一月第一版を創刊し爾來蘇杭州, 寧波, 温
州, 鎮江, 南京, 蕪湖, 九江の案内及び在留邦
人人名録を加へ毎年二回之が訂正を施し日本人
唯一のガイド且つホンダリストとして在留邦人
及新來者の欠ぐ可らざる重要出版物たり。本社
は尚之に慊らず今回当港と最も商業上の關係重
き漢口, 青島及び濟南案内を之に加へ名を「上
海, 漢口, 青島案内」に改め此七版を以て其大
發展版とせり」。

[参考]: →「I -16」

〈1918〉

12. 上海写真帖

金丸建二

上海家庭写真会 (北四川路長安里第12号)

大正7年6月5日

380×203 横仮綴29頁 銀2弗50仙

[注1]: 金丸建二は「撮影兼発行者」。

[注2]: コロタイプ印刷所は民信社 (北四川
路392号), 活版印刷所は開文社印刷
所 (崑山路12号)。

◆上海 12頁58葉: 上海総領事館・日本郵船
会社支店・英租界江岸・百老匯路・日本郵船会
社虹口棧橋・日清汽船会社浦東棧橋・日本郵船

会社楊樹浦棧橋・南滿鐵道会社楊樹浦棧橋・大
阪商船会社楊樹浦棧橋・大日本帝國郵便局・日
本人俱樂部・虹口市場(2)・東本願寺・滬上
神社・ベビーガーデン・日本小学校・新公園
(2)・六三園・月廼家花園・ガアデンプリッ
ヂ・英租界公園(4)・バンド(3)・英租界
の江口・英租界波止場(2)・浦東入船信号所・
税関・南京路(3)・競馬場・四馬路・愚園
(3)・氣象報告塔・仏租界江岸・仏租界公園・
公館馬路・城内・湖心亭・城皇廟・十六舖・極
司非而路公園(4)・竜華寺の塔・東亜同文書
院・滬杭停車場・滬寧停車場／邦人経営会
社工場及各商店 17頁78葉: 三井物産・三
菱商事・南滿洲鐵道支店・東洋汽船出張所・大
阪商船・日清汽船・横浜正金銀行・台灣銀行・
三井銀行・住友銀行・朝鮮銀行・古河公司・大
倉組・高田商会・大日本麦酒株式会社・増田貿
易・上海運輸・鈴木商店・武林洋行・東亜通
商・佐藤商会・野沢組出張所・阿部市洋行・書
上洋行・明治貿易公司・日華洋行・福井洋行・
東亜公司・宝洋行・黒木洋行・大沢洋行・御木
本真珠店・日信大藥房・重松大藥房・堀井謄写
堂・康茂洋行・東麟洋行・石田洋行・淡海洋
行・海運業海洋社・真崎洋行・東洋旅行案内
社・上海日報社・上海日々新聞社・亞洲日報
館・上海商業学校上海日本人基督教青年会・滬
上青年会・西本願寺上海女学校・内外綿会社工
場・華章造紙廠・公興鐵廠工場・上海製造絹糸
株式工場・宝山玻璃廠・上海紡績有限公司第一

工場・同第二工場・同第三工場・三井雲竜綿操
線工場・三井製粉工場・稲垣呉服店・伊藤医
院・石橋洋服店・万歳館・池上洋行・仁寿堂・
豊陽館・本間健児診療所・東和洋行（旅館）・
富屋商店・渡辺商店・渡辺ヒスイ店・川内回漕
店・開文社・大正屋・藤本呉服店・たまや呉服
店・太陽館・竹内印刷・園田洋品店・土橋号・
八代館・松田松風園・山北洋行・丸福・福家洋
行・小竹齒科医院・佐々木医院・サンライトヒ
テル・みやげものや本店・同支店・篠崎医院・
志賀洋行・新杵製菓店・申江堂・杉浦洋服店

13. 新上海 附蘇州杭州南京案内

江南健児共著

杉江房造編

日本堂書店（文路227号）

大正7年7月30日

四六版 201頁 函版・表・地図

銀1弗（金1円50銭）

[注1]：杉江房造は「編輯兼発行者」。

[注2]：匿名「江南健児」は、東亜同文書院
生のことか。もちろん、「エナミ、ケ
ンジ」という著者のことではない。

[注3]：印刷者は蘆澤多美次（乍浦路279号）。
「大販売所」の一つに、上海申江堂を
記す。

◆ [滬上榷客] 序文2頁 / [著者同人] 一卷と
なるまで2頁 / 目次2頁 / 口絵4頁 || 上海の
概説 / 居留地と上海県城 / 浦東閘北及呉
淞南市 / 上海の防備 / 上海義勇団 / 工部

局 / 巡捕房 / 衛生と消防 / 上海会審衙門
監獄 / 新聞と雑誌 / 海関 / 商業会議所 /
領事館及領事団 / 学校及教育機関 / 東亜
同文書院及天文台 / 金融機関 / 上海の通
貨 / 郵便 電信 電話 / 電燈 水道及瓦斯 /
倉庫及び碼頭 / 電車と鉄道 / 交通機関 /
各国俱樂部 / 上海の名所 / 娛樂遊覧場 /
上海の日本人料理屋と芸妓 / 上海年中行
事 / 旅館ホテル客棧 / 上海にある支那各
省特産物 / 小菜場（マーケット） / 上海
居留民団 / 寺院及び日本人墓地 | 南京案
内 147-155 / 蘇州、鎮江案内 155-159 /
杭州、寧波案内 159-166 / 支那英語 / 会
話二則 / 各国汽船出入運賃哩数

[注]：目次には、最後に「上海日本人人名録
附録」とあるが、これは別冊。

* 「序文」：「上海の案内書は最近のもの
なしとの事にて日本堂主人之を編纂し、
世に公けにせんとす / 題して『新上海』
と云ふ、旅行者の指南たらしめんが為め
なるべし / 島津氏の『上海案内』（「I
-16」）もあり、されど目下売り切れ中と
の事、その間に此の小冊子を出せる日本
堂主人の抜け眼なき所なるべし」。

* 「一卷と成るまで」：「某旅館主人曰く
軽便なる旅行者の携帯に便にして上海の
事情が早分りする本がありませんか出来
たら売れますが現在の上海案内は余り大
きくポケットに入らず客は困つて居りま

すと／幸ひに絶版となりし**江南事情**(「I - 5」) 手に入る之を訂正收拾して世に出さん誰か適當の人なきやと畏友木公先生に相談す／紹介により**江南健児某氏**に面会す四人分担調査して編纂するとの事参考書として左の書を渡す／出品協会編纂**江南事情**／**林氏大上海**(「I - 9」)／**杉尾〔☆勝三〕氏上海案内**〔☆明治42年, 日本実業社(『泰成堂書店古書目録 No.36』(2004年10月)による, なお「I - 4」所載の広告によると, 松翠堂書店発売, 定価洋7角)／**故遠山氏**(「I - 3」)／**上海指南**／**島津氏上海**／**上海商務印書館**〕。

[参考1]: 「I -16」所載の「上海日本堂書店発行書目」: 「別冊にて**上海日本人職業別営業案内**添／本書は携帯に便にせん為め簡にして要を得るを主眼とし而も各方面に亘りて詳細漏さず各々其道の人々の校閲を経たれば統計数字の誤り引用せる規則文の陳腐誤謬なきは名づけて『**新上海**』と称する所以なり」。

[参考2]: 『**中支**(上海／地誌)』『**華中**』(一般案内13): 「**新上海**／日本堂／昭和7／本書は大正十二年に改正改版が出て居るから, 初版は勿論それ以前のものである」。なお, 『**華中**』(一般案内14)にも「**新上海**／**江南健児**〔匿名〕／日本堂／昭和7」が採られるが, 日本堂より『**新上海**』が二種発行されたとするのは誤解であろう。

[参考3]: 『**言語**』(p154): 「編者**杉江房造**は日本堂主人にして**上海日本人各連**

合会の常任委員を務めた実力者である。ここでは上海を訪れる者のために, 手とり足とり懇切丁寧な案内をしている〔和田桂子〕。

〈1919〉

14. 東亜同文書院各府県 入学試験問題集

山本熊一

濱田商店 (東京)

大正8年1月18日

四六版 336頁 1円20銭

[注]: 山本熊一(1889-1963)は「編輯兼発行人」。

◆目次4頁／凡例1頁 Ⅱ 入学試験問題

* 「凡例」: 「本書は大正五, 六, 七年の三ヶ年に亘る東亜同文書院各府県及各公共団体等の入学試験問題を蒐集せるものなり」。

15. 実用上海語

王廷珩

上海日本人基督教青年会出版部

(崑山花園22号)

大正8年3月20日

100×146 199頁 大洋8角

[注]: 「発行兼印刷者」は大久保忠臣。印刷所は, 上海印刷株式会社(赫司克而路33号)。

◆ [藤村義朗] 序2頁／[藤田九臯(上海商業学校長)] 序4頁／自序2頁〔☆華文〕／目録

4頁／五声図1頁 || 散語部<20課>；数目類・人事類・時日類・乗車類・地名類・国名類・穀物類・食品類・器具類・店舗類／問答部<20課>

* 藤田九臯「序」：「上海語は支那語中の一語にして其使用の範囲が制限されて居ると云ふ問題に対して吾人は常に世界貿易に於ける上海の位置と云ふ事を考へ且つ一語に通ずるは他の支那後の根底を造る上に決して徒勞に終ない事を主張し得るのである／この書の著者王延珩先生は本校の上海語並に北京語の講師として多年努力せらるる先生であつて、この講師より上海語を教授される日本人は既に数千人に及んで居るのである」。

[参考1]：『上海公論』第2巻第7号（大正9年7月1日）巻末に、同書の「訂正再版」本の広告が見られるが、編者を「王延班」と誤植。

[参考2]：前掲『中国語学資料叢刊第四編尺牘・方言研究篇 第三巻』は、同書の増補版（昭和2年7月第5版）の復刻を取めるが、同第一巻の「解題」（p 6）では、初版を「大正八年（一九一九年）三月、小林榮居刊」と記す。

16. 第八版 上海案内

島津長次郎

金風社（北四川路第2長安里2号）

大正8年12月1日第8版

四六版 448頁 図版・表・地図

銀2弗

[注1]：島津長次郎は「発行兼編輯人」。印刷所は、蘆澤印刷所（崑山路1号）。「売捌所」は、日本堂・申江堂・至誠堂（閩行路）。

[注2]：版；大正2年1月10日初版／同11月20日第2版／大正3年4月10日第3版／大正4年1月1日第4版／同9月25日第5版／大正5年5月25日第6版／大正6年3月30日第7版／

[注3]：表紙画清水トミ，題字清道人。

[注4]：→第9版「I-20」

◆ [山崎馨一] 序1頁／[佐原篤介] 序2頁／自序2頁／目次4頁／口絵23頁 || （総記）1-58／行政58-90／公共事業90-117／陸上交通117-139／水上交通140-160／商工業161-197／官公所其他198-219／雑部220-267／上海事情268-320 || 邦人案内1-58 || 上海各人営業種別1-36 || 滬寧鐵道線旅行案内1-16／長江案内16-21／滬杭甬鐵道線旅行案内 21-34

* 「自序」：「全く支那の事情は千万頁を以て書き尽せるものではない況や其お台所と称へらるゝ複雑な半歐化せる而して強い固有の色彩を帯びた上海の事情に於てをやである、故に此上海案内も上海の事情を悉く一部に説き尽しあるとは決して言へない只上海の大なる輪郭だけを説いてあるに過ぎない之より深く詳しきを求めんには専門に

立入ることにて本書の及ばざる所である。其深く詳しきを求めんには最近に設立せられた東亜攻究会あり、専門に支那研究に不断の努力を払ひ毎月其研究を公にせる井上紅梅氏の「支那風俗研究」あり、個人として須賀虎松氏柏田忠一氏等あり、何れも支那に就て尊ぶ可き知識を有せらるゝ方々である。／本書は大正二年一月十日初版を出し今第八版を重ね初版に比せば稍や内容が整つたとも言へることを光榮とするものである」。

* 「邦人案内 (p31)」：「大正二年一月始めて「上海案内」第一版を発刊し上海の案内記に加ふるに邦人人名を附せり。案内記は上海の沿革，上海小史，上海事情，日本領事館令，民団規則，邦人案内及び蘇杭州長江案内を載せ，邦人人名は上海に店舗を有する総ての人々を網羅せるものにして邦人の虎の巻として左右を離す可らざるの書なりとの世評を受け爾後版を重ね第七版に至り従来の上海蘇杭州以外漢口青島の案内及び人名を附し六百十余頁の大部なるものと成れり故に大正六年十二月前記案内記は別に案内記のみを発行することゝし従来の人名録を離し始めて茲に「支那在留邦人々名録」(「I -39」)と題し更に濟南湖南方面を加へ第八版を刊行したり。／該八版上海案内は前期の如く大正六年三月第七版に

て留まれるものに今回大增補改版せるものなり。／金風社は此外上海大地図武漢三都大地図を発行し常に世に裨益すること少からず，社長庶務外交総て編者島津四十起一人なり」。

[参考 1]：平野健『上海渡航の栞』(「I -21」)の滬上榎客「序」：「上海に関する各種の書物のうち／案内書として詳細なるは島津氏の『上海案内』也」。

[参考 2]：『中文』(上海／地誌)『米澤』：「大正十三年金風社發行／後に日本堂發行の上海案内書で十一版まで重版してゐる。上海の歴史から行政施設，名所，旧蹟，名物，珍談，奇習に至るまで細大漏さず記述しており，現在では歴史的文献に数へてよい」。『華中』(一般案内 2)：「上海案内／島津長次郎／金風社／大正 2 (初)／次々と続版され，大正十三年の分は第十版(「I -29」)に当る。邦文，華文，歐文書に類書は随分多いけれども，同種のもので本書の右に出るものはない。政治，經濟，文化の各分野に亘つて居るが，上海習俗の項は特に示唆に富んで居る」。

[参考 3]：『言語』(p153)：「この本は今でいうなら大手旅行会社のガイドブックである。初版は一九三一年に出た。『支那在留邦人々名録』の著者である島津四十起が編者となり，井上紅梅をはじめ二〇余名の協力を得てつくられたこの本は，上海を訪れる人の多くがまずはじめに求めたものだろう (和田桂子)」。

〈1920〉

17. 自一九一七年至一九一九年

上海港輸出入貿易明細表

〔『週報』臨時増刊第437号〕

安原美佐雄

上海日本商業會議所（文路20号）

大正9年7月26日

190×262 348頁 表 銀3弗

〔注〕：安原美佐雄は「編輯兼發行人」。印刷人は蘆澤多美次（崑山路 OA 1 - 2号）。

◆目次19頁 || 一九一九年度上海貿易狀況
／一九一九年度支那對外貿易

〔参考1〕：『中支』（上海／産業）は、「上海港輸出入貿易明細表1920-1931年／上海日本商工会議所／大正12-昭和7」と「上海港輸出入貿易明細表1914年・1926-29年／上海日本商工会議所／大正4 - 昭和5」（『經濟月報臨時増刊』）を採る。

〔参考2〕：同明細表は後にも続けて刊行され、上海図書館には同書以外にも、「自一九二五年至一九二七年」版（佐立住江編，日本商工会議所，昭和3年）・「自一九二六年至一九二八年」版（昭和4年）・「自一九二七年至一九二九年」版（昭和5年）・「自一九二八年至一九三〇年」版（昭和6年）が所蔵されている（『上海図書館館蔵旧版日本文献総目』（上海科学技術文献出版社，2001年3月））。なお、「I -16」所載の広告によると、「上海港貿易明細年表／

定価一部銀貳弗金四円」と「同月表／一ヶ年銀貳弗」が上海日本商業會議所より発行されている由。

18. 炮きつく夢

島津四十起

金風社（北四川路長安里2号）

大正9年10月15日

四六版 190頁 函版 1円50銭

〔注〕：島津四十起（長次郎）は、著作兼發行者並びに装丁者。印刷所は、蘆澤印刷所（崑山路 A 1号）。

◆自序1頁／目次5頁／口絵1頁 || <詩歌集
>公園／夏夜／赤子の頭／乍浦路／俱樂部の窓／戦／病床／指輪／排日運動／鳩／旗／人形／下宿／尼僧 徐家匯路にて
／我子／妻／IとU／杏花楼／地上の影
139-190

◇ → 「I -54」

〔参考1〕：「I -16」所載「金風社發行目錄」：「著者が芸術生活の眞実なる歌である、悩みの所産である「……小説から受ける同じ程度の感銘を得ました青年時代に琢木の歌を愛読しましたことが一時ありますがそれ以来こうした感銘を歌から受けたことはありません……」とは菊池寛氏の推讃」。

〔参考2〕：『言語』（p153）：「〔☆『上海案内』の〕編者の島津はもともと俳人であったが、上海で歌集も出し、評

判を呼んでいた。ことに一九二〇年刊行の歌集『炮きつく薨』（金風社）は菊池寛を感動させるほどの出来であった〔和田桂子〕。

◎上海渡航の榮

大正9年11月16日

◇訂正再版（「I - 21」）奥付による。

19. 東亜同文書院一覽自大正八年八月至九年七月

東亜同文書院

大正9年

菊版 204頁 函版

[注]：奥付なし。

◆口絵4頁／目次4頁 Ⅱ 学年曆／概説／沿革／東亜同文会主意書／創立東亜同文書院要領／工業科設置ノ主旨／東亜同文書院章程／細則／職員学生及卒業生／書院ノ建物及設備／東亜同文書院中華学生部簡章

Ⅱ. 上海小冊子（紀要・報告書等）

〈1917〉

1. 東亜同文書院紀要

東亜同文書院（徐家匯虹橋路第100号）

大正6年4月22日

18頁 函版

◆口絵3頁 Ⅱ 東亜同文書院沿革／現在職員氏名及担当／科程授業時間表／卒業生

各期府県別表／卒業生総数及職業別／現在就職別及死亡者／在学生府県別表／建築工事ノ概要

〈1920〉

2. 財団法人上海日本人倶楽部年度報告書

（自大正八年四月一日至大正九年三月三十一日）

上海日本人倶楽部

大正9（1920）年

15頁

◆総会議事日程／事務報告／会計報告

Ⅲ. 上海地図

〈1883〉

1. 上海略図（1：50000）

岸田吟香

『清国地誌』卷一（「IV - 2」）所収。

〈1903〉

2. 上海図

遠山景直・大谷藤次郎

『蘇浙小観』（「I - 2」）所収。

〈1908〉

3. 最新上海地図

THE New Map OF Shanghai City

谷岡繁編

松翠堂書店（虹口文路 K2242号）

明治41年5月28日 ケース入り

[注1]:「発行兼印刷者」は富松繁治（長崎）。

[注2]:「I - 4」掲載の広告には、「定価洋三角半」とある。

[注3]:上海写真20葉付す。

〈1909〉

4. 清国全図・上海市街図（英漢文入）

NEW MAP OF CHINA & SHANGHAI

財藤勝藏

十字屋（大阪）

明治42年4月 袋入り

[注]:同地図は、張偉等編『老上海地図』（上海画報出版社、2001年6月、p54・55）に転載されているが、「上海市街図（1910）」と改題する。

〈1910〉

5. 上海市街地図

上海出品協会『揚子江富源 江南事情』

（「1 - 5」）所収。

〈1913〉

6. 上海港内区画図

*PLAN OF SHANGHAI HARBOUR,
SHOWING SECTIONS AND POSITION
OF WHARVES, DOCKS, ETC 1912*

東則正『支那税関と其通関手続』

（「IV -12」）所収。

7. 最新実測上海地図

THE New Map OF Shanghai City

日本堂書店

大正2年8月20日

40銭 ケース入り

[注1]:「編輯兼発行者」を「日本堂／代表者杉江房造」とする。

[注2]:上海北四川路聚賢里開新社印行。

〈1916〉

8. 最新実測 上海地図

THE New Map OF Shanghai City

杉江房造

日本堂書店

大正5年7月10日

50銭

[注1]:「編輯兼発行者」を「日本堂／代表者杉江房造」とする。

〈1919〉

9. 最新実測 上海地図

THE NEW MAP OF SHANGHAI 1918

出光衛

至誠堂（閩行路86号）

大正7年10月5日

大洋3角5分

[注]：出光衛は「著作兼発行者」。印刷者は中田熊冶（大阪）。

IV. 上海関連本

〈1883〉

1. 清国各港便覧

曾根俊虎

海軍軍務局（東京）

明治15年3月23日

折本1帖 不発売

◆清国通商碼頭十九港名（広東・厦門・福州・寧波・上海・芝罘・天津・牛庄・鎮江・汕頭・淡水・九江・漢口・打狗・瓊州・北海・温州・蕪湖・宜昌）普通之口音／目錄Ⅱ（上記19港の）第一号：碼頭の所轄省府県・開港年紀・経緯度／第二号：寒暖氣候／第三号：地勢及碼頭並土人市街之現況／第四号：定備兵並艦船之数・大砲小銃之種類／第五号：砲台兵營之位地並砲座之性質／第六号：製造諸局之位地並製造之諸品

／第七号：人口・宗教及人情風俗／第八号：駐劄文武官／第九号：各国領事處並客店及人口・上海ヨリ各港ニ至ルノ里程／第十号，第十一：産地各物／第十二号：各港税六年比較（光緒元年～六年）／第十三号：各港税総計表・外国貿易之税・内国貿易之税／第十四号：出入船舶及噸積表／第十五号：出入船舶合数及噸積合計／正誤

[参考]：『米澤』；「明治十四年刊，折本。著者は明治六年以來縷々上海に出張。清仏戦争に淺からぬ關係を有す」。『華中』（歴史地理54）も，「明治14」とする。

2. 清国地誌

岸田吟香

樂善堂（東京）

明治15年5月

和装3冊：卷一65，二89，三96丁

図版・地図

[注]：岸田吟香は「編輯兼出板人」。

◆上海関連箇所は，「卷二・江蘇省」の一部のみ（絵図「上海城隍廟」，「上海埔頭」を附す）。なお，「卷一」に「上海略図」（「Ⅲ-1」）掲載。

[参考]：『米澤』；「和綴絵入り本三冊」。『華中』（歴史地理55）

〈1890〉

3. 現今支那風俗独案内

石丸喜輔

石丸商社分店（東京）

明治23年5月23日

四六版 143頁 図版

[注1]：石丸喜輔は「編纂兼発行者」。発行所
石丸商社は製薬本舗（大阪）。

[注2]：岸田吟香題箋，山本憲序文，吉備山
人編纂。

◆言語／歳時／教育／冠婚／衣服／請客
／生死／祭礼／雑事

[参考]：増田涉は「『雑書』雑談」（前掲『雑
書雑談』p110）の中で、「日本人の
上海研究」の嚆矢をなすものとして
同書を取り上げ、「この書は別に上海
だけの案内書ではないが、『凡例』に、
中国は大国で四方の風俗はいろいろ
だが、と前置きして「当今彼我往来
交通するもの南方を以て最とす。故
に専ら南方の風俗を略記す」といっ
ている」と言う。

〈1892〉

4. 支那漫遊実記〔寸珍百種第14編〕

安藤不二雄

博文館（東京）

明治25年12月21日

112×162 200頁 図版 10銭

[注]：影印本あり。『幕末明治中国見聞録集成
第11巻』（ゆまに書房，平成9年10月24

日）所収（p269-500）。

◆国際大親睦会 14-19／日本人の墓
地に謁る 55-56／上海織布総局に於て製
する綿糸 71-72／上海港 98-103／居留
地警察の印度巡查 103-104／旦那どうぞ
十銭下さい 105-106／小車 106-107／上
海の暑気 107-109

〈1900〉

5. 燕山楚水

内藤虎次郎

博文館（東京）

明治33年6月30日

四六版 322頁 図版 45銭

◆禹域鴻爪記；上海 98-108／鴻爪記
余；支那人と狗 197-198・美人産地の沿革
205-207・滬上の演戯 207-212／禹域論纂；
清国に於ける専管居留地；其一 253-261

[参考]：『米澤』，『華中』（歴史地理69）

『言語』

〈1902〉

◎支那富源 揚子江

明治35年4月9日

◇再版（「IV-6」）奥付による。

6. 支那富源 揚子江

藤戸計太

同文館（東京）

明治35年5月25日再版

菊版 294頁 図版・地図 70銭

[注]：校閲者松崎藏之助。

◆第二編揚子江本論：第一章上海
14-76；地理・貿易・工業・新聞及其他
の出版業・金融機関・金舗・貨幣

[参考]：『中支』（中支那一般）『米澤』：「經濟
事情を述ぶ」。『華中』（歴史地理72,
産業交通労働152）

〈1903〉

7. 清国漫遊案内

青柳篤恒・中山東一郎

博文館（東京）

明治36年12月25日

四六版 174頁 表・地図 75銭

◆諸表之部；横浜上海間船客運賃表及同里程
表・横浜上海間定期船発着表・上海牛莊間船客
運賃表・上海漢口間船客運賃表及同里程表・上
海杭州間船客賃金表及同里程表・上海蘇州間船
客賃金表及同里程表・上海杭州間曳船賃金表・
上海南清間船客賃金表・上海寧波間船客賃金
表・上海吳淞間汽車時間表／案内之部；横浜
上海間航路案内・上海漢口間航路案内・上海杭

州間水路案内・蘇州上海間水路案内・上海福州
厦門汕頭香港間航路案内・上海寧波温州
間航路案内・上海北清間航路案内／附録
「清国地名便覧」19頁

〈1906〉

◎清国商業総覧 第一巻

明治39年12月5日

◇再版（「IV-9」奥付による。

〈1907〉

8. 清国商業総覧 第四巻

根岸佶

東亜同文会刊

丸善株式会社（東京）発行

明治40年5月7日

菊版 507頁 図版

[注]：奥付は東亜同文会を「著作者」とする。

◆第5編 清国貨幣及銀行：第二章 長
江；第一節 上海 109-214

〈1910〉

9. 清国商業総覧 第一巻

根岸佶

東亜同文会刊

丸善株式会社（東京）発行

明治43年7月7日再版

菊版 206頁 図版

[注1]: 奥付は東亜同文会を「著作者」とする。

[注2]: 版; 明治39年12月5日初版

[注3]: 「簿記例題記帳法附各種商業書式」を付す。

◆第一編 支那商一斑; 第九章 上海糧行及上海商業慣例 130-164

10. 巨人荒尾精

井上雅二

佐久良書房 (東京)

明治43年9月10日

菊版 358頁 図版 1円20銭 函

◆第4章: 日清貿易研究所時代 36-74

[参考]: 『米澤』: 「初版は明治四十三年であるが, 昭和十一年東亜同文会で再版〔☆未見〕した。日清貿易研究所の創立者たる東方齋荒尾精の伝記で, 研究所設立当時の上海事情, 瀛華広懋館 (商品陳列所), 楽善堂, 東洋学館等に関する記述があり上海邦人発展史の重要文献である。『華中』 (歴史地理77)

<1911>

11. 支那印象記

小林愛雄

敬文館 (東京)

明治44年11月13日

四六版 222頁 図版 70銭

◆二 上海の街頭38-56; アスター・ハウス

／高官の家／張園と愚園／四馬路の紅燈

<1913>

12. 支那税関と其通関手續

東則正

上海日本人実業協会 (武昌路3号)

大正2年8月5日

菊版 379頁 図版・地図 2円

[注]: 東則正は「編輯兼発行者」。印刷所は蘆澤印刷所。

13. 蘇浙見学録

来馬琢道

鴻盟社 (東京)

大正2年8月26日

菊版 218頁 図版・地図 並製60銭

[注]: 著者来馬琢道は禅宗の僧侶, 『禅宗聖典』・『禅学活問答』等編著多数。

◆序4頁 || 蘇浙巡訪談; 第二 東京より上海; 四, 上海に着す12-13 / 第三 上海より杭州; 一, 上海13-16 / 蘇浙尋訪; 一日一信; 其一 上海より (一) 109-110 / 其二 上海より (二) 111-112: 挿図; 上海張園 / 其三 杭州より (一) 112-113 / 其十四 再び上海より (一) 123-124 / 其十五 再び上海より (二) 124-126 / 其二 三たび上海より 136-139 / 其二 三

佐渡丸より 139 / 支那旅行の用意
214-218

* 「序」：「本書は、大正二年三月〔☆12日〕四月〔☆21日〕に渉る間の蘇浙地方〔☆上海・杭州・蘇州・鎮江・南京附近の寺及び旧跡、普陀山と寧波の天童寺や育王寺等〕の現状を録せる一部の報告書」。

* 「上海 (p15)」：「日本堂といふ絵端書や、書籍を売る家も、其処〔☆日本人町〕にあつて、私は此店で案内記を買ひました」。

[参考]：『中支』（中支那一般 / 地誌・紀行）『米澤』：「四六版仮綴」は誤。『華中』（歴史地理83）：「蘇浙見學餘」は誤記。

〈1914〉

14. 支那関税改修の本邦輸入重要商品に及す影響附其取引状況

東則正

上海日本人実業協会（文路20号）

大正3年3月27日

菊版 346頁 非売品

[注1]：東則正は「編纂兼発行者」。印刷者は、蘆澤多美次。

[注2]：表紙に「マル秘」印。

◆附録：自一九〇九年至一九一三年五個年間上海輸入日本重要商品税関申告価額

表 14頁

〈1915〉

15. 貿易上ヨリ見タル 支那風俗之研究

内山清

上海日々新聞社（梧州路10号）

大正4年12月21日

菊版 538頁 函版 2円

[注]：印刷所は、作新社（梧州路10号）。「売捌所」は、東亜公司・日本堂・申江堂。

◆ [有吉明] 序4頁 / [鶴見左吉雄（農商務省書記官）] 序2頁 / 小引2頁 / 目次17頁 || 緒言 / 容姿；支那人の身体・支那人の装飾品及携帯品・貿易上より見たる装飾品及携帯品 / 服装；総論・支那服の衣料・衣料の色彩及模様・特種の服装・支那輸入貿易と衣料並に其原料・支那輸出の衣料並に原料・日支貿易上より見たる衣料並に原料 / 住居；総説・家屋・室内用品・住居と貿易 / 器具；形体及用途・原料及貿易 / 食物；総論・料理・副食物・飲食物と貿易

* 「小引」：「本書は大正四年一月より同七月迄上海日々新聞紙上に連載したるものを編纂出版せるものであるが余が支那風俗の研究に従事するに至つたのは明治四十二年以降のことで本書は数ケ年に亘る余が支那研究の一部を発表したもので

ある／支那現代の風俗の研究に関しては余が先生たる姜梅生江平波徐眷臣の三氏に負ふ処少くない反之参考書と云ふべきものは甚だ少く実地調査を主としてをる／尚ほ本書の出版に就いて直接間接に援助を与へられたる有吉総領事本書を公にするに至つた上海日々新聞社々長宮地貫道氏本書を英訳せられたる英人マンレー氏及び書中の挿画を画かれた松田大石の両画伯に対しても厚く感謝する次第である／終りに本書は余が支那在留満八個年間の記念たると同時に余は本書の続編として「文芸上より見たる支那風俗の研究」特に戯曲小説の類に関する研究を公にする考であつたが今回暫く支那を離れなければならぬので其は後日の楽しみに残し置くことゝする」。

〈1916〉

16. 消夏漫筆 支那

中山成太郎訳

有斐閣書房（東京）

大正5年3月28日

菊版 619頁 2円50銭

◆第二章 第二 支那に於ける専管居留地
〔☆フランス租界〕／第三 支那に於ける各
国居留地〔☆共同租界〕

*「緒言」：「第二章支那に於ける海港植民地，専管居留地及各国居留地は千九百十三年発行「グルンヘルド」氏支那海港殖民論に依り／之を抄訳せるものにして，総て独逸人の支那に関する観察及報告に過ぎざるのみ」。

17. 南支那の一瞥

岡田忠彦

警眼社（東京）

大正5年4月24日

菊版 226頁 図版・地図

[注]：定価の記載なし。

◆総説1-3／長崎より上海まで4-13／上海（上）13-45／上海（下）45-60／上海より蘇州まで61-65／上海滞在一出發215-219

*「総説」：「予は官遊して長崎に在ること二年有半，其間長崎港と最も関係の深い上海其他長江一帯の地を是非一見したいとの希望を持つて居たが，今夏上司より渡航の許を得て其目的を達することが出来た。時は大正三年八月盛夏の真最中で，夜間尚夢を結び兼ねることも屢次あつた頃である。／許可の日子は二十日前後，之で如何の範囲まで見物が出来やうか。／種種研究の結果，次の日程により旅行を試みることに決定した。／八月三

日 長崎発 近江丸／五日 上海着／七日 蘇州／八日 南京／十二日 漢口／十七日 上海／十八日 杭州／十九 上海／二十二日 上海発 郵船／二十四日 長崎着」。

18. 東行先生遺文

東行先生五十年祭記念会

民友社（東京）

大正 5 年 5 月 14 日

菊版 623頁 図版 非売品

◆日記及手録：遊清五録 72-124；「航海日録」・「上海掩留日録」・「長崎掩留雜録」・「内情探索録」・「外情探索録」

[参考]：『米澤』：「游清五録／文久二年上海互市のため幕府から派遣された使節について、上海に渡航した高杉晋作の手記。／そのうち航海日録と上海掩留日録とは漢文で書かれてゐる。大正五年民友社発行「東行先生遺文」に収められている」。

『華中』（歴史地理88）：「〔☆遊清五録は〕文久二年幕府第一次上海派遣官船千歳丸で〔☆高杉晋作が〕来滬した時の記録。／千歳丸研究必読の書」。

〈1918〉

◎支那漫遊記

大正 7 年 6 月 25 日

◇ 3 版（「IV -19」）奥付による。

19. 支那漫遊記

徳富猪一郎

民友社（東京）

大正 7 年 7 月 20 日 3 版

→大正 7 年 7 月 28 日 4 版

四六版 556頁 図版・地図 2 円50銭

[注]：版；大正 7 年 6 月 25 日初版／同年 6 月 28 日再版／

◆ [蘇峰学人] 陳言一則 3 頁／ [蘇峰学人] 例言 2 頁 || 禹域鴻爪録；上海雜信 247-265 | 遊支偶録

* 「例言」：「本書を分て二部と為す。

『禹域鴻爪録』は、予が大正六年九月乃至十二月に互れる行程を、其日其日に記したるものを、殆ど全く其儘に採録したる也。『遊支偶録』は、予が旅行中の感想を、帰朝後追記したる也。明治三十九年五月一八月の交、予の支那に遊ぶや、『七十八日遊記』の著あり。読者若し此書と参照せば、思半ばに過ぐるものあらむ」。

[参考]：『言語』

20. 世界乃富源 支那印象記

安本重治

東洋タイムス社（東京）

大正 7 年 10 月 4 日

125×176 302頁 1円20銭 函

◆筑后丸にて1-7／大上海8-28／日本人の地位と対日感情28-43

〈1919〉

◎支那我観

大正8年3月1日

◇増訂3版(「IV-21」)奥付による。

〈1920〉

21. 支那我観

松永安佐衛門

改造研究会(東京)

大正9年5月1日増訂3版

四六版 303頁 函版 2円

◆支那小游；滬寧鉄道にて上海へ117-121／孫逸仙氏との会談121-129／孫洪伊との会見129-132／小学校と同文書院132-136／議論と風邪137-138／上海を立つ日139-142

22. 支那大観 第壹集 中部支那

金丸健二

上海家庭写真会(北四川路長安里第12号)

大正9年8月5日

横大判

[注1]: 金丸健二は、撮影兼発行者。

[注2]: コロタイプ印刷所は河野写真製版所(東京)。

[注3]: 定価の記載なし。

◆[金丸健二] 支那大観発刊に附て1頁／中部支那写真帖創作賛助芳名録1頁／目次2頁 〓 上海 28頁69葉: 上海公園と黄浦江(二枚続き)／公園橋・上海公園／上海公園音楽堂・上海公園／共同租界江岸の芝生・イルチス記念牌／仏租界江岸／ロバートハート氏銅像・上海海関／浦東海関信号所附近／共同租界(黄浦灘路)江岸・仏租界江岸碼頭／南市江岸／氣象信号報告塔・パークス氏銅像／南京路／福州路・四馬路／四川路(2)／漢口路・九江路／広東路・洋経浜／江西路・河南路／市街(2)／競馬場・競馬倶楽部・大馬路・新世界／蘇州河河口・内海航行汽船発着所／大日本帝国総領事館・日本人倶楽部・大日本帝国郵便局・日本尋常高等小学校／虹口小菜場・籠店・花店・野菜果実店／吳湘路・百老匯路・滬寧鉄道停車場・広東公園／新公園(2)／十六舖江岸・法界公館馬路・仏蘭西公園(2)／上海县城新北門・城内湖心亭・城内城隍廟／静安寺・徐園・愚園(2)／竜華の塔・東亜同文書院・徐家匯天文台・李鴻章氏銅像／極司非而路公園(4)／杭州／蘇州／鎮江／南京／蕪湖／桃中鉄山／九江／廬山／大冶鉄山／漢陽／武昌／漢口／上海の通貨／上海流通外国銀行紙幣／上海義勇団／上海租界の巡查と消防

23. 支那風俗 巻上

井上進（紅梅）

日本堂書店（上海文路227号）

大正9（1920）年12月5日

499頁 図版 3円

→大正10（1921）年7月20日再版

[注]：再版本奥付では、初版を「大正10年4月25日」とする。

◆序2頁／目次2頁／口絵：[石井柏亭画] 著者像 〓 支那料理の話／上海料理屋評判記77-143／婚礼の話／閩豔秦聲／花雕と女兒酒／茶館と茶道／花柳語彙267—294／四馬路生活295—307／物売の声309—341／美人投票342—353／靈藥六神丸／阿片奇談／嫖界指南 [☆「九尾龜」邦訳]／街の替名481—499

*「序」：「想へば大正七年一月このかた自分は無茶苦茶に支那のことを書いてゐた。それは雑誌「支那風俗」といふ小さな刊行物を出し、気が向けば書き、いやになれば一月も二月もツす [★すッ] ぼらかして遊んでゐた。こんな気紛れな仕事をしてゐたが、それでも二年ほど経つ中にだんだん記事が溜まつて来て四六版でザッと千二百頁ほどの容積となつた。そうして今度まとめてみると其大部分は支那の五大道楽、吃、喝、嫖、賭、戯の

説明であつた。／爰に増補し改訂し上下二巻に分つて出版することにした。

*「上海料理屋評判記 [はしがき]」：「大正八年九月初旬、金風社の島津氏が上海案内 [☆「I -16」] を改訂するから支那料理に関して何か書けとの御注文。そこで自分は早速当時の料理屋の模様を調べて此稿を纏めてみた。

[注]：なお、井上紅梅「支那女研究香豔録」(支那風俗研究会、大正10年6月1日再版)にも、「上海料理屋評判記」という同名の文が収録されているが、これとは別文。

[参考1]：再版の復刻本あり。中国料理技術選集の一冊として、柴田書店（昭和57年1月10日）より出版。

[参考2]：「[☆1923年] 五月の十二日になつて私は画家の谷 [☆丹矢] 君を伴れて南京へと往つた。静かな廢残の蔭の深い金陵の城市。その定相王廟対面蔡家花園には、栗林医院と云ふ日本人のやつてゐる病院があつて、其所の二階の病室に井上紅梅氏がゐた。井上氏は支那文学の研究者で支那風俗と云ふ三巻になつた大部の著書をはじめ他にも二三の著書がある。日本人で真個に支那文学に精通してゐる者では氏を措いて、他には無いと云つてもいい」(田中貢太郎「上海見聞録」(『貢太郎見聞録』大阪毎日新聞社・東京日日新聞社、大正15年12月17日、所収)。

[参考3]:『言語』は、再版本を採る。

《追補》

I - 1. 上海繁昌記 卷一

清葛元煦撰 藤堂良駿訓点

明治11年 稲田佐吉(東京)刊本

和装小型 42丁(本文29丁)

[注1]:全三冊のうち巻一のみ架蔵。

[注2]:影印本あり。『和刻本漢籍隨筆集第十四集』(長澤規矩也解題,汲古書院(東京),昭和52年7月)所収(p291-365)。なお,「稲田佐吉刊本」は,同集の長澤規矩也「解題」に従う。なお同集では,『上海繁昌記』の原書『滬游雜記』の訓点本(現存二卷(巻一・二),堀直太郎訓点,明治十一年東京山中市兵衛・大塚禹吉覆清刊)も影印されている(p241-289)が,「両書に略されてゐる〔☆原書の〕各国国旗を付け加へる」(長澤規矩也「解題」)。

◆口絵/序/凡例/[袁祖志]序/[葛元煦]自序/弁言/目録||上海交界里数・租界(居留地)・馬路(馬車道)・陰溝(下水)・陰井(用水)・大橋・道旁樹木・租界例禁(居留地布告)・上海城隍・神誕日・武聖宮(關帝廟)・邑廟東西園・也是園・徐氏未園・徐家匯花園・外国花園・外国花卉・法華牡丹・春申侯祠・青蓮庵・一粟庵・施廟・黃婆庵・靜安寺・龍華寺・紅廟・城隍会(鎮守祭)・茅山会・孟蘭

盆会・蘭花会・菊花会・賽花会(盆栽会)・水龍会・賽跑馬(競馬)・賽跑船跑人・江海関(運上所)・製造局・会審公堂・会捕局・広方言館(洋学校)・博物院・牛痘局(種痘所)・善堂・放生羊・放生鼈・工部局・巡捕房(屯署)・申報館(新聞社)・客棧(旅人宿)・万国公報・格致彙編・西曆(太陽曆)・礼拝(日曜日)・房捐(区費)・保險(非常請合)・棉花生日・救生輪舟・房賃(家賃)・教習英語文字・救食生洋烟・輪船招商局(蒸気会社)・新報館(雜誌)・号頭(番地札)・大自鳴鐘(大時計)・午正砲・火警鐘(半鐘)・洋水龍(唧筒)・馬車・脚踏車(自転車)・東洋車(人力車)・小車・灑水車・垃圾車

[参考1]:『華中』(歴史地理53);『滬游雜記』四卷の中第一・二・三の三卷に訓点を施して,三卷に改めたものである。

[参考2]:増田渉「雜書雜談」(前掲『雜書雜談』p232);「日本の翻刻本では,右にのべた『滬游雜記』の第一卷第二卷はそのまま採り,第三卷及び第四卷を,内容をそれぞれ半減して合せて一卷にまとめ,都合三卷としたもので,これに訓点,振仮名を附し,改題して『上海繁昌記』と名づけたのである。その「繁昌記」というのは,云うまでもなく寺門靜軒の『江戸繁昌記』に倣うもので,当時「繁昌記」という書名が流行していたことは,『田舎繁昌記』と

か『東京新繁昌記』とかいう本の出ていたことで知られる。／『滬游雑記』の巻首にある租界の地図や各国の国旗及び商船旗は、『上海繁昌記』では删られているが、その代り黄浦江及び蘇州河の景を描いた安田老山の口絵が入っている」。

[参考 3]：小林愛雄『支那印象記』（IV-11, p56）：「何人の著作か知らぬ『上海繁昌記』に、『茶煙酒霧，鬚影衣香，氤々氤々』などと書いてある」。